

外来であった症例

うちは“こどもクリニック”ですが、漢方外来をやっていることもあり、大人の方の受診もあります。必然的に「困ったとき」に、とりあえず行ってみようと当院を受診される方がいます。専門医性の高い疾患は、すぐに専門医へ紹介しています。うちで対応できるものは、できる範囲で対応しています。大人の方で最近あった疾患です。



60代女性：お元気でバリバリ働いておられます。今年の会社の健診で初めて不整脈を指摘されました。

Case1

『完全房室ブロック』という病名です。心臓の電気回路の一部を構成する房室結節という組織が機能不全を起こし、心臓の電気活動がポンプである寝室に伝わらなくなるため、極端に遅い脈になります。倦怠感や息切れ、浮腫（むくみ）などの症状が出ます。数秒以上脈が止まってしまうと、めまい、ふらつき、失神を起こし、突然死のリスクもあります。この方は循環器内科を受診され、脈が途絶えないように、ペースメーカー植込術を受けました。

60代男性：岐阜市の漢方外来に受診されました。外来受診前にいつもテニスで汗をかいています。

Case2

その日は「テニスは休んだ」と。顔色不良で元気がありません。脈をみたら徐脈でした。慌てて救急外来を受診してもらいました。循環器内科の先生が『洞不全症候群』と診断しました。Case1の方と同様、脈が遅くなり、倦怠感、息切れなどの症状が出ます。この方は、そのまま入院となり、ペースメーカー植込術となりました。

※1ヶ月に2人の方がペースメーカー植込術を受けたのは初めての経験でした。

お知らせ

岐阜市の
漢方外来

11月11日(土)
25日(土)

時間：14:00-17:30
場所：中島小児科(岐阜市鍵屋東町2-1)
※すべて「院外処方」です。

小児の例です。男3人兄弟です。

次男が水痘(みずぼうそう)を発症しました。予防接種(定期接種)を2回うってあったため、発熱もなく、水痘疹も少なく軽症で済みました。しかし、水痘の終わりがけにインフルエンザA型に罹患。水痘+インフルエンザAの重感染(重複感染)となりました。水痘に感染すると、潜伏期間が2週間あります。インフルエンザは潜伏期間が1-2日と短いので、水痘を発症した直後に感染したと考えられます。インフルエンザも発熱1-2日内、咳が少しくらいとのことでしたので、軽く終わりました。話の続きがあります。それから長男→3男と水痘を発症し、インフルエンザも同様に長男→3男と続きました。3人とも無事に後遺症なくキレイに治りました。

Case3



※インフルエンザウイルスは感染のスピードが早いので、次々と感染していつてしまいます。今回は2つのウイルスが重なって発症と考えられる、まれなケースです。

嘔吐、咳が止まらない、幼児例です。

Case4

食が細く、体重増加の悪い男の子です。元気はありますが、手足が細く、やせ型です。嘔吐をする回数が多く、時々咳が止まらないと訴えが 있습니다。病院を受診され、上部消化管造影などから『胃食道逆流症』と診断されました。経口摂取の工夫を指導され、胃酸分泌抑制剤(H2ブロッカー)の内服が始まりました。以前から当院で飲んでいた六君子湯も併用のままとりました。この組み合わせで、1ヶ月経過した頃から、嘔吐がなくなり、少しずつ経口摂取量が増え、体重も増え始めました。

※小児の胃食道逆流症は診る機会が少ないです。無症状が逆流するだけの胃食道逆流現象は新生児・乳幼児ではよくみられる生理的なものであり、年齢とともに軽快します。

休診のお知らせ 11月4日(水)、15日(水) 都合により休診します

小児夜間急病
センター当番日

11月17日(金)

時間：19:30-22:30(受付)
場所：岐阜市民病院